

## 意見交換会 一中、三中校区

### 【グループ A】

#### ■子どものニーズとは

子どもの真のニーズ

- ・プロはめざしていない
- ・子どもは何を望んでいるのか 子どもたちの本音を聞きたい
- ・友だちと一緒にいたい
- ・同じ学校の子とは違うところに行きたい

そもそも・・・ →どんな方向性か

- ・自分に合う種目がわからない
- ・イメージがわからない
- ・クラブ活動どころではなく、忙しい

経験・体験が大事！ いろいろな種目

- ・マイナースポーツをしてみたい
- ・eスポーツ、スケートボード、英会話、いろいろなものをできるようにしてほしい
- ・文化的、伝統的なクラブを作る 能、華道、茶道、琴、歌舞伎など

場所

- ・練習場所がない

指導者

- ・本当の専門家の指導を受けられるようにするには、指導者を保障をしてあげないと難しい

#### ■何ができるか、可能性

- ・民間施設 スクール活用
- ・公共施設の利用
- ・年間通して他種目への参加
- ・別の校区で活動できる
- ・認知度を上げる
- ・指導者によって指導のばらつきがあるのでは
- ・指導者の責任が重くなるので、ルールづくり、マニュアル作りを厳しくする
- ・技を身につけるのではなく、人間性を育てるために、指導者としての資質が問われる
- ・スポーツの用品店などの指導
- ・子どもに対してもっと国が予算をつけるべき

保護者の思いもある

- ・指導者と保護者が子どもの共有をしっかりとしないとむずかしい。

## 【グループ B】

### ■子どものニーズとは

楽しい

- ・仲間と過ごす時間を謳歌したい

交流

- ・部活動の枠組みを超えて、交流できる場をつくりたい 他中学、地域の方など（将棋交流会など）
- ・近隣の高校、大学生との交流

多様な選択肢

- ・兼部できるようになったらいい
- ・部活としてではなく、ゆるスポーツ（文化部も参加できる）
- ・クール毎に選択できる
- ・参加者が選択できるカテゴリー別のクラス設置
- ・種目をまとめたマルチ種目の設置
- ・子どものニーズの多様性に対応するに、クラブにできなくても同好会制導入は？
- ・運動クラブと文化クラブは同じように改革？スポーツに重点を置いていないか？
- ・自分のやりたい種目があってほしい

指導者・質

- ・クラブ運営団体と学校との連携は？
- ・競技という視点に加えて運動基礎となるもの
- ・専門的な部活指導には財政的な問題もあり、どのように解決して継続的な運営が可能か。
- ・各部活の多様性（専門性）部活の指導者として専門分野のインストラクターに指導していただく方が生徒にとって望ましい

活動場所

- ・気軽にスポーツができる場がほしい
- ・地域の移動の負担が少ない場所での活動

### ■何ができるか、可能性

- ・専門指導者や地域住民の方たちも指導・運営に関わる体制をつくる
- ・地元企業参画による援助（資金、インストラクター）提供
- ・地域の人材を生かす。ボランティアではなく、有償で。少なくとも教員の手当と同額
- ・既存施設も使用したい

## 【グループ C】

### ■子どものニーズとは

わくわく、楽しい、おもしろい → 自主性

- ・放課後楽しく過ごせる
- ・好きなこと、打ち込めること、わくわくする
- ・子どもたちがやりたくて入ったクラブならば、初心者であっても充実したクラブでありたい
- ・団体活動ができる
- ・おもしろい、楽しい→うまくなりたいたい→自主性

いろいろな活動、カテゴリー別、異年齢交流

- ・いろんな活動があればよい
- ・スポーツと文化の両立ができればよい
- ・カテゴリー別は？
- ・選択できる
- ・兼部できる
- ・自由がいい ゆるいがいい
- ・異年齢交流

専門性

- ・専門家から学ぶことができる
- ・専門性

時間

- ・平日の活動時間をもう少し長くしたい

### ■何ができる、可能性

選択できる、出会う、知る、体験できる

- ・選択できるもの
- ・体験できる
- ・体験してからどれにするか決められる
- ・知らないことを知ることができる

## 【グループ D】

### ■子どものニーズ

子どものニーズ 第一歩

- ・自分が入りたい部活動がある
- ・いろんなスポーツや文化活動にチャレンジしてみたい
- ・季節により種目を変えて1年を楽しむ

## 環境

- ・ 道具、器具の設備は？
- ・ 平日の練習ぶりと違う体験をしたい
- ・ 真面目に取り組もうとしている姿に応じてほしい（応えたい）
- ・ 指導者、アドバイザーが確保できるのか
- ・ 好きなスポーツを好きなレベルで教えてもらいたい
- ・ 人から教わりたい

## 新しいクラブ、種目

- ・ キャンプ
- ・ 自然内での共同活動
- ・ 自分の住む地域探検クラブ
- ・ 箕面山を知りたい
- ・ 高齢者の問題を考えるクラブ
- ・ 料理、お菓子づくり
- ・ ダンス

## 欲求

- ・ 自分の可能性を試したい
- ・ 一生付き合える仲間をつくりたい
- ・ 青春を謳歌したい
- ・ モテたい

## ■何ができるか、可能性

### 学校⇔地域

- ・ 子どもたちの普段の活動を見てもらえる、テクノロジーを活用する
- ・ 学校教育と民間・地域との連携をはかる
- ・ 子どもたちや教育に思いを持った大人たちを集める
- ・ 学校間や校種間（小・中・高）の壁を取っ払う
- ・ 民間企業や外部団体とも連携して「ヒト・モノ・カネ」を回せるエコシステムをデザインする
- ・ 教員の兼職兼業をスムーズに実現させる仕組みをつくる
- ・ 学校施設を活用（収益化）できるモデルをつくる
- ・ 公共施設の活用
- ・ クラブが求めることは何か（技術向上か、コミユカ、根性論？）
  
- ・ 指導者、アドバイザーの認定制度
  
- ・ プロのレッスン
- ・ 入口が違う

- ・コート、環境の確保
- ・指導者のスキルアップ
- ・最低限の設備が必要
- ・指導者・大人の役割
- ・プロ（専門性・教育）の力を活用する

- ・クラブ紹介（たくさん、期間）

### 【オンライン①】

意見交換会 一中、三中校区（オンライン）

#### ■子どものニーズとは

楽しく感じる要因は？

- ・モチベーション 勝負
- ・楽しさ→選択できる
- ・主体性、自主性
- ・誰かが見ていてくれるのはありがたい

- ・子どもが安心できるものが望ましい  
子どもが部活に興味を示している  
新しい環境 入学時不安がある  
勉強もある

- ・学校外、校区外に通う  
レギュラーになれるかも  
保護者の負担が増える

- ・専門性  
先生だとわかりやすい

- ・発表の場がある

#### ■何ができる、可能性

- ・指導員が必要  
接点、連絡等が課題  
数の確保が必要
- ・イベント的なもの

## 【オンライン②】

### ■子どものニーズとは、

仲間との思い出作りの場

今までとは違い、濃厚な関わりではなく、サークルみたいなものになっていくのではないか。良い思い出もあるがしんどい思いもあった。

良い意味で濃厚な関係性ではないが、風通しの良い環境になるのではないか

スマホで繋がってる子たちと離れ、世界が広がるのでは。

今あるものを活かす

持続可能

子ども会みたいなものを活かすなど

やりたいが叶えられる環境

人や可能性との出会いの場

安心して初心者としてチャレンジ

吹奏楽は顧問による差が大きい。中学の時から市内の差が気になっていた。地域移行によってそのことの解消につながるのではないか。指導する先生の音楽の方向性が変わってくるので、そのあたりをどう折り合いをつけていくのか。(打楽器担当だった顧問だとリズムミクな音楽が得意などという意味。)

### ■何ができるか、可能性

フリースポーツ部のようなもの、極める・深めるタイプなど様々なものを選べるようになる。

子ども会との連携、リーダークラブ、子ども会のドッチボール大会

学校でやる必要がなくなるので、選択の幅が広がる。

好きな熱量や雰囲気のところを選択することができる。

自分と違う価値観の人と共に経験すること。

(課題)

送迎の心配が出てくる。

=====

## 意見交換会 とどろみ

### 【グループ A】

#### ■子どものニーズとは

子どもが選択できるように

- ・いろんな種目を体験したい
- ・種類を増やす
- ・子どもに合うレベルの練習
- ・チャンピオンスポーツ？

## 指導内容の統一

- ・指導の統一

## 活動場所

- ・活動場所の確保
- ・活動時間の確保（指導者がいない時に活動できない）
- ・校外の活動場所の充実
- ・練習試合をもっとしたい

## 地域との連携

- ・地域との連携 指導者がほしい

## ■何ができる、可能性

### 指導者発掘～地域の指導者～（指導者への謝金は必要）

- ・教員以外の指導者を呼ぶ
- ・指導ができる人が練習だけでも見てもらう（シルバー人材など）
- ・部費を集める

## 活動機会の確保

- ・地域の施設を使わせてもらう

## 【グループ B】

### 人との関わり

- ・仲間づくり
- ・人と出会う
- ・友だちと直接関わる

### こんなクラブがあればいいな

- ・クライミングクラブ（プレイルームの壁を使えるのでは・・・）
- ・陸上競技部
- ・木工クラブ
- ・農業クラブ
- ・文化系の部活が少ない

## 自由に選べる

- ・学校のわくにとらわれない
- ・レベルに応じる受け皿
- ・練習試合をしたい
- ・多様化

- ・いろいろなことが体験できる

#### 自主性

- ・平日練習は子どもだけ

#### 思いっきり活動できる場所

- ・安全管理ができた広い敷地が使える 時間
- ・学校と切り離す
- ・活動場所が少ない

#### ■何ができる、可能性

##### 地域と繋がる

- ・地区の多世代サークル
- ・シートス 他の施設
- ・ボランティア指導者の募集
- ・市や学校の枠をはずす
- ・合同チーム
- ・部外活動（時々外で別の活動（クリーンアップ活動など）に参加する、別の競技をするなど）
- ・地域愛、地元愛
- ・民間トレーナーの育成

#### 【グループ C】

#### ■子どものニーズとは

##### 新しい部活

- ・兼部
- ・地域とのつながり
- ・農業部など 少し違った部活動
- ・乗馬クラブ（馬のボランティア（馬の世話をしながら、乗馬ができる））
- ・アウトドア部

#### 環境

- ・承認要求をかなえる
- ・場所
- ・顧問が優しい
- ・豊かな心を育みたい
- ・楽しく活動したい
- ・放課後楽しく過ごせる場
- ・楽しく参加



## 求める方針

- ・試合をしたい
  - ・自分のレベルに合った活動がしたい
  - ・強くなる
  - ・痩せる
  - ・筋力、太る
  - ・異年齢との交流
  - ・仲間
  - ・他学年と仲良くなれる
  - ・小学生から繋がるもの
- 
- ・好きなことが見つけられる
  - ・夢をめざす
  - ・青春

## ■何ができるか、可能性

- ・休耕地の利用
  - ・スノーピーク利用
  - ・クレーン利用（乗馬クラブ）
- 
- ・交通手段（ゆずるバス）
  - ・トンネル割引
  - ・地域との協力を！
  - ・履正社の協力
  - ・年齢近い人、卒業生の参加
  - ・地域クラブを立ち上げて民間と協働する
  - ・交通手段（スクールバスなど）開拓する
  - ・ボランティアバイト（高校生から）

## 【オンライン】

- ・子どものニーズとは

自己成長。うまくなったなという体験ができれば、がんばれるのではないかな。

成長できるような指導者がいてくれれば。

子どものやる気。保護者が進めている、無理やりは違う。小中学校の間にいろいろ体験して、生涯スポーツとしてできるものが一番ではないかな。

一番を狙うものは、学校の部活動ではなく、クラブチームがめざすものではないかな。

どういう体験ができればやる気になるのかな。

子どもが楽しいと思えるものでないといけない。

成功体験が必要ではないかな。積み重ね。

・ どのような指導者が理想なのか

保護者のこともあるので、営利関係や利害関係がない人が良いのではないか。えこひいきなく。

長年やっていただける指導者

いろいろな面で余裕を持たれている方がいいのではないか。(お金、時間) この仕事をしたら生活できる保障をしないといけない。保護者と国が保障しないといけない。

・ 指導者に対して、どのような取り組みや制度があればいいと考えますか

指導者養成の講習を昔はやってた。どこかが旗を振らないと

指導者の研修。コンプライアンスの面についても必要。

国や府や市がある程度考えないと難しい。継続して学べる場。

・ 活動場所について

止々呂美には履正社がきている。そのグラウンドを活用できないか。指導者についても活用できたらと思う。

それぞれの自治会館なども活用できるのではないか。(ダンスや卓球などはできるのではないか。)

キャンプ場も活用できるのではないか。

バレーなんかはサントリーと連携できたら良いのではないか。他の種目も。

・ どのような人と連携すれば、活性化していくのか。

各自治会長と連携できたら良いのではないか。

新駅の大学のスペースとかも使えたら良いですね。

守る会の方で交流できたらと思っている。地域の子どもとスポーツなどを通して交流する企画をしている。

他世代の交流ができるのはどうか

高校の部活に参加していくことができないのか。

小学生やママさん卓球なども巻き込んだことがある。

=====

## 意見交換会 二中、五中地区

### 【グループ A】

#### ■ 子どものニーズとは

##### ○ 欲求

- ・ 運動がしたい
- ・ 体を動かしたい
- ・ やりたいスポーツなど うまくなりたい
- ・ 思いっきり遊びたい

- ・楽しいことをしたい

#### ○仲間

- ・仲良しの友だちとふれ合う時間がほしい
- ・たくさんの仲間を作りたい
- ・仲間とつながり、友だちになりたい

#### ○環境

- ・自分のレベルに合った活動がしたい
- ・指導者を選びたい
- ・広い練習場所がほしい
- ・文化部の発表の場がほしい
- ・他のチームと練習試合をもっとしたい
- ・大人数（チーム）で1つのことに取り組みたい
- ・お金を気にせずチャレンジしたい

試合、発表、施設

お金、財政

#### ■何ができるか、可能性

- ・クラブ担当の教師を置く
- ・人材バンクや指導者コミュニティなどで幅広く指導者を確保するシステム
- ・トップレベルの教育ができる人材を確保するための財源確保
- ・トップレベルの指導ができる人材を確保するための財源確保
- ・経験者や指導希望者を募る。または調査する
- ・運営を支える役割を担う子どもたち
- ・卒業生、地域にいる人
- ・他地域との連携を図るコーディネーター
- ・正しい情報を得られるプラットフォーム
- ・地域クラブをデザインできるプロデューサー
- ・高校生や大学生との連携
- ・地域の大学、高校との連携（文化部も運動部も）
- ・メンタルを支えてくれる人もいてくれるといいな
- ・教員の兼職兼業
- ・年配者の知識を得たい
- ・プロチームや企業チームとの連携
- ・地域の教室（ダンスやスポーツ、楽器）の指導者
- ・教員の退職者
- ・地域のチーム、団体
- ・地域の方々（見守りも含めて）

- ・他の中学校と練習を共にする
- ・民間の指導者との連携
- ・財政的支援（市から、国から）
- ・気の合う友だちと同じ作業をしたい
- ・だれでも参加できる講習会
- ・オンラインの活用
- ・保護者の育成プログラム

### 【グループ B】

#### ■子どものニーズとは

##### ○校種間

- ・高校生や大人と一緒に練習する
- ・中高連携
- ・拠点校

##### ○機会

活動機会を増やす

多種多様な選択を！

- ・練習時間
- ・スポーツ×学習
- ・ゆる部活（カテゴリー別）

##### ○地域

- ・昔あそび
- ・歌、箕面市の歌のサークルなど
- ・地域の同好会行事への参加
- ・地域のボランティア活動（高齢者サロン、子ども食堂、子育てサロンなど）
- ・公園（地域）の清掃

#### ■何ができるか、可能性

- ・高校教員が中学生を指導する
- ・お金
- ・世代間交流
- ・コミセンの利用、団体との連携
- ・地域行事と中学校の連携

### 【グループ C】

##### ○憧れ、楽しい、人生を豊かにする、出会い

- ・大人にあこがれて、自分もやりたいと思う（プロやマスコミの影響を受ける）

- ・楽しいを伝えてくれる人
- ・文化部に入り、初めての経験をしたい
- ・特にやりたいことがないけれど、得意なことを見つけたい

#### ○専門技術

- ・スポーツクラブに入って、技術を磨きたい
- ・専門的な指導を受けたい  
(指導者の問題がある)

#### ○友だち、仲間

- ・友だちをつくりたい
- ・気の合う仲間と過ごしたい

#### ○環境

- ・好きなことに打ち込める環境
- ・十分な設備 (場所、備品)

#### ○他校、異年齢との交流

- ・他校との交流
- ・年齢を超えて楽しめるという経験

#### ○選択肢いろいろ

- ・箕面山を知りたい
- ・クラブの数が少ない
- ・日本古来の、伝統的な種目

#### ○ニーズはいろいろ

マッチング それぞれが選べる 気軽に参加できる→保険が大事!

「もっと活動したい」

- ・時間の延長、もっと練習がしたい

「ハードル高い」「ゆっくりしたい」

- ・本気のスポーツはハードルが高い
- ・ゆっくりしたいな

#### ■何ができるか、可能性

- ・市の各スポーツ連盟との連携
- ・市のHP等で当該スポーツ (文化芸術) 経験者を募集
- ・地域スポーツ団体の活用

- ・生徒が生徒だけで練習できる枠組み
- ・指導者や先生が代わっても対応できる柔軟な練習メニュー
- ・学校施設だけでなく、公共施設を開放する
- ・地域団体の活用（ゆるく楽しく参加したい生徒の受け皿として）
- ・京都府の事例 フリースポーツ部に倣う
- ・「その種目が好きな人が集まる会」が、何かしてみたいの会に働きかける
- ・市民活動を知る機会をもつ

### 【グループ D】

#### ■子どものニーズとは

#### ○部活の持つ力、教育的側面

- ・友だちがいるから入ったグループ
- ・学び
- ・好きなことより探究したい
- ・夢
- ・将来の模索
- ・可能性
- ・知らないことを知りたい
- ・自分を見つめる
- ・多様性の中から選択
- ・情報を得る

#### ○出会いの場、関係性を学ぶ

- ・協調性を学ぶ
- ・居場所
- ・友だちとの交流
- ・仲間づくり
- ・他校の子どもたちと部活を通して交流したい
- ・先輩後輩をつくってみたい
- ・人とのつながり

#### ○自己表現の場

- ・達成感、やりがい
- ・目的
- ・目標
- ・自由度

- ・ 運動機会
- ・ 自己表現

■何ができるか、可能性

- ・ 部活動型を残す
  - ・ 部活動の数の多さ
  - ・ 体験の場の確保
  - ・ 拠点地を作る
- 
- ・ 校区を越えたチーム作り
  - ・ 自由に他校と行き来できるシステム
  - ・ 世代をこえた交流
  - ・ 人間関係を知る
  - ・ 聞く力の育成
- 
- ・ 地域団体応援
  - ・ 指導者のコミュニティをつくる
  - ・ 具体的な目的を提示できる人材
  - ・ 専門家の指導
  - ・ より専門的な知識
- 
- ・ ニーズを知る
  - ・ オンライン指導
  - ・ 入りやすさ、入口の広さ
  - ・ 合同練習
  - ・ 選択肢・機会を増やす
  - ・ 規模に応じた活動の場の確保
  - ・ 地域交流
  - ・ 合同発表会
  - ・ 他校との練習試合の充実
  - ・ 自主性
  - ・ 主体性
- 
- ・ 平日の移動は？ → オンライン、自分の学校で部活
  - ・ 少ない種目
  - ・ 1つの種目にしぼらない

【オンライン】

■子どものニーズとは

- ・「勝つこと」は部活動の目的から外すべき
- ・たくさんのスポーツを経験してほしい
- ・人との繋がり（友だち・先輩）
- ・勝ちたいという目標を持って活動している（考えの選択）
- ・たくさんの選択肢（スポーツ・文化活動）
- ・他校とのコミュニティが広がる
- ・子どもたちが楽しんで参加している

■どんなことが必要

- ・人材の確保
- ・指導者の身分・賃金保障が必要
- ・居場所づくり
- ・クラブに入らなくても一緒に何かができる環境
- ・子どものニーズを受け入れられる環境が必要

=====

意見交換会 四中、六中地区

【グループ A】

■子どものニーズとは

○技術、専門性

- ・うまくなりたい
- ・専門的な指導を受けることができる
- ・将来へのステップ（プロ選手など、スポーツ推薦）
- ・指導者からの学び（専門性、教育的観点）
- ・ロールモデル（あこがれ）を見つけることができる
- ・信頼できる指導者を選ぶことができる
- ・複数の種目にチャレンジすることができる

○人間関係、選択性

- ・楽しい人間関係（友人関係）
- ・仲間と一緒に楽しめる
- ・チャレンジしたい、種目を選択できる
- ・子どもの成長過程から考えた場合、個人競技より団体競技を体験
- ・新しい仲間ができる

○環境

- ・家から近い場所



- ・試合や大会に安定して参加することができる
- ・自分に合わせた活動ができる

#### ○成長

- ・成長を実感できること 自己実現
- ・自分の力を試す（発表する）場がある

#### ■何ができるか、可能性

- ・質の高い指導者確保（指導力、技術力）
- ・指導者への対価を確保するための財源
- ・自分をどこまでレベルアップ 引き出してくれるか
- ・専門指導者から指導を受けることができる
- ・教員の兼職兼業
- ・民間企業との連携
- ・複数のカテゴリーレベル別の試合や発表会を行う
- ・選択できる（違う種目に参加できるように）
- ・学校施設の有効活用
- ・地域内での情報共有 プラットフォーム
- ・（地域クラブによって）自分の学校以外の友人や指導者との人間関係が築ける
- ・他の学校にも行ける

#### ■どういった方が連携していけるか

- ・地域クラブの運営をプロデュースできる人材
- ・校種間の連携をコーディネートできる人材
- ・民間・行政・学校との連携をコーディネートできる人材
- ・企業のクラブチームの方に声をかける
- ・地域で活躍している方に声掛け
- ・民間企業、指導者提供、スポンサー、広告
- ・専門学校、大学
- ・難しいが、トップ選手、企業の選手を招く
- ・指導希望者を募集
- ・学生
- ・技術のレベルを一定基準定める

#### 【グループ B】

#### ■子どものニーズとは

#### ○楽しい、安全

- ・安全にスポーツができる
- ・安全面、大人の関わりは大事
- ・部活動内でのいじめへの対処
- ・活動場所へ安全に移動できる
- ・スポーツが苦手な生徒も楽しめるスポーツ
- ・生徒にコート整備等をやらせたいが指導の中に入れていいのか

○指導者 質の担保

- ・しっかり技術指導がしたい 多少は厳しくなっても
- ・技術の向上 ある程度必要である

○教育

教育的な研修を

教員が指導者に

- ・学校教育の一環（子どもの人としての成長）
- ・生徒が主体的に活動できる

- ・学校と指導者との連携方法は？

○交流

競技志向も enjoy も

選択ができる

多様な体験を！

勝ちたいを叶える、楽しみたいも叶える、子どものニーズを知る

- ・1つだけでなく、いろいろなスポーツを経験することができる
- ・校区を越えて活動できる
- ・仲良しクラブを提供するだけならやめたいと言っていた指導者がいた

- ・Bandを使うようになって、生徒の個人的なことにタッチするのが良いのか、悪いのか

■何ができるか、可能性

- ・指導者への研修
- ・生徒の目標を具体的に示す
- ・地域クラブへの参加

【グループ C】

■子どものニーズとは

○出会いの場

- ・仲間と過ごす時間
- ・部活動を通じての友情を獲得する
- ・同じ目的を持っている仲間との楽しさ
- ・仲間づくり

○人間関係を学ぶ

- ・先生等との交流
- ・人間関係

○多様な選択肢

- ・体づくり

- ・得意なことで自己実現をめざしたい
- ・目標に向かうため

- ・うまくなりたい、上達したい
- ・放課後の過ごす居場所
- ・クラス以外での居場所を求める

#### ■何ができるか、可能性

##### ○少子化

##### ○オンラインでつなぐ

- ・学校→エリア別に活動
- ・子どもたちが選択

- ・自由に参加できる、とすると参加するのか。
- ・コーディネートする専門的な役割
- ・ゴールを決める（〇年には部活動廃止等）
- ・現状は教師の代わりに誰かに担ってもらおう仕組み

#### 【グループD】

#### ■子どものニーズとは

##### ○楽しい、友だち・仲間、もちあじ

- ・楽しい
- ・仲間をつくるのに大親友になれるような付き合い
- ・友だち
- ・勉強が苦手 クラブが命になる

##### ○知る

- ・新しいことを知る、技術を知る
- ・地域を知る
- ・異年齢での活動

- ・横とのつながりを持つために、遊びを取り入れたゲームをさせる
- ・苦手の種目でも好きになれる

##### ○選べる放課後 楽しみ・安心・安全

- ・いろんな種目を体験したい
  - ・今までの1つだけではなく複数のクラブに参加できる
  - ・種目を限定せず、子どもがやりたいスポーツを体験させる
- こんなクラブあったらいいな
- ・ものづくり（工作、裁縫、絵を描く、書道、パソコン等）
  - ・アーバンスポーツ（スケボー、BMX、クライミング等）
  - ・日本文化部（茶道、華道、着付け等）

## ■何ができるか、可能性

○だれでも指導できるわけではない

- ・ 1人ひとりに合わせた対応
- ・ 技術指導だけではない
- ・ 指導者の研修
- ・ 個性を大切に、続けて見ていくことが必要
  - ↓ そのためには
  - ・ お金が必要
  - ・ 覚悟が必要

- ・ 少子化対策 エリア設定でのクラブ活動
- ・ 合同で活動
- ・ 多世代交流できるスポーツ、文化、ボランティア活動
- ・ 学校間とか地域間の枠を超える

## 【オンライン】

### ■子どものニーズとは

○選択肢が多いと良い

- ・ オリンピック競技、習い事にあるような種目（新体操、バトン、チアなど）
- ・ 中学校から初めてスタートできる種目やクラブ
- ・ 身体の成長・ケガによる挫折を感じさせない
- ・ 個人種目でもみんなでがんばる

○自分が興味を持ったものは何個でも参加できる

- ・ シーズン制
- ・ 求められるレベルがいろいろある（今の部活動）
- ・ 民間スクールはレベル、敷居が高い
- ・ 通える範囲が望ましい

### ■どんなことが必要？

- ・ レベルに応じたクラス分け
- ・ 通える時間帯を選択できると良い

○指導者の確保

- ・ 指導者べったりつかなくても良いのでは
- ・ プロの指導者でなくても良い
- ・ 経験者の発掘（文化系は多いのではないか）

○公共施設の充実

- ・ バスの活用 中学生バス（無料）
- ・ 遠いところでも参加できる

- 指導者の質
  - ・指導者に対する評価制度
  - ・指導者研修
  - ・保護者、民間等から推薦（一般募集ではなく）

○お金

=====

**意見交換会 彩都地区**

**【グループ A】**

**■子どものニーズとは**

- 仲間づくり
  - ・気の合った仲間たちと活動したい
  - ・仲間づくり
  - ・仲間
  - ・友だちと差がない
  - ・居場所
  - ・競技性の少ない活動
- 自主性
  - ・自分たちで企画した活動をしたい
- 価値付け
  - ・自分の価値をPRしたい
  - ・価値
  - ・進路
- 極めたい（多いわけではないが必要）
  - ・上達
  - ・専門的な指導を受けたい
  - ・試合を通して成長したい
- QOL（Quality Of Life）
  - ・複数の種目にチャレンジ
  - ・余暇
  - ・充実
  - ・発散
- きっかけ・土台
  - ・ゲーム
  - ・テレビ

- ・ e スポーツ
- ・ YouTube
- ・ 仮想空間

#### ■何ができるか、可能性

- ・ オンラインの活用
- ・ 中学生版スポーツのマッチングアプリ
- ・ コミュニティ

- ・ ポートフォリオ
- ・ アバター化
- ・ ブランディング

- ・ 指導対価の確保
- ・ 報酬
- ・ 体験
- ・ 人材確保
- ・ 企業協賛
- ・ 専門の資格制度

- ・ 場所の提供
- ・ 中学生は割引 スポーツ施設
- ・ 企業協賛（認知拡大）
- ・ 放課後の活用（学校施設）

- ・ 発信
- ・ テクノロジーの活用
- ・ 中学生専用無料 Wi-Fi
- ・ 自分、チームの発信 SNS 等

- ・ 学校部活動の有無

- ・ 監視の目
- ・ 部活動デザイン、プラットフォーム

#### ■どういった方々が連携していただけるか

- ・ 企業
- ・ プロ、企業チームとの連携（専門性）

- ・ 地域
- ・ セカンドライフの方々の力添え
- ・ プロ、企業チームとの連携（普及）

・メディア

- ・民間と学校教育との連携
- ・学校教育の柔軟な考え
- ・自治体、国
- ・学校、行政、地域 コーディネーター
- ・部活デザインプロデューサー

・親教育（コーチ）

### 【グループ B】

#### ■子どものニーズとは

##### ○選択

- ・ゆるやかに（ガチではない）
- ・ガッツリやりたい（ガチ）
- ・兼部
- ・練習時間
- ・ゆる部活
- ・上手になりたい

##### ○他の楽しみ

- ・勉強と両立したい
- ・やりたいけれど、内申書に関係ないからどこまでがんばればよいかわからない
- ・プライベートが最優先
- ・短時間（2～3時間）

##### ○仲間

- ・楽しくやりたい
- ・仲間と共に乗り越える経験
- ・友だちと繋がりたい
- ・明るく楽しく（ルールに縛られない）
- ・勉強以外の楽しみ

##### ○指導者

- ・専門性、顧問
- ・指導だけではなく、人間性

#### ■何ができるか、可能性

- ・拠点校
- ・仕組みづくり（文化）（コース別）
- ・効率よい練習法（情報、オンライン）
- ・専門的なトレーナーをつける
- ・企業、お金

- ・スポーツ×学習
- ・校種間（小、中、高）
- ・兼職兼業
- ・大会運営
- ・教員のバックアップは必要
- ・教員が関与
- ・続けることに価値を見出す

### 【グループ C】

#### ■子どものニーズとは

##### ○楽しめる場所

- ・放課後楽しく過ごせる
- ・自分の居場所

##### ○地域での絆

- ・世代間交流ができる
- ・地域で役にたてる

##### ○豊富な選択肢

- ・各自のレベルに応じた自らが設定した目標設定
- ・興味のある取り組みに気軽に参加できる
- ・保護者もたまには参加できるような種目
- ・チャレンジする場所
- ・自分の可能性を見出せる場所

##### ○自己実現

- ・成功体験

##### ○質の高い指導者

- ・心身共に鍛錬
- ・競技力を向上させる

##### ○思いを共有した仲間

- ・仲間づくり
- ・同じ時間を過ごす仲間づくり
- ・多様な人（大人、先輩、後輩）との関わり

##### ○活動機会

- ・活動機会の拡大



■何ができるか、可能性

- ・地域の人とのつながり
- ・地域との連携
- ・地域、保護者の理解
  
- ・コミュニケーションにより、自らの足りていない点（技術）を認識する（させる）
- ・成果主義に陥らない
  
- ・子どもたちが自分で考えて行動できる場の提供
- ・毎日の細かい目標を設定させる
  
- ・レベルの高いコーチを採用する
- ・実績ある団体、組織
- ・信頼のおける指導者
- ・資格制度（指導者、審判など）の拡充
- ・指導者に対する報酬
  
- ・充実した施設
- ・小、中、高の垣根を越える
- ・学校、家から通える範囲

ポイント

- ・役所のイニシアチブ
- ・お金
- ・民間・行政の連携
- ・学校の理解（教員）

【オンライン】

■子どものニーズとは

- 自身が行っている競技をうまくなりたい（上達したい）
  - ・大会等で優秀な成績をおさめたい
  
- 子どもの期待に応えられる
  - ・環境が整っている
  - ・朝練がしたいと思った際に指導者いなくてできないこともあった
  
- 複数の種目を選択できる
  - ・いろんなことを話せる機会（選択肢がある）
  - ・野球部の冬練習にサッカーをやっている（サッカーをやりたいと声がある）
  
- 人の関わり
  - ・学校以外の人（合同）
  - ・顧問の先生

- ・ 友だち、先輩、後輩

○大会は大丈夫なのか

- ・ 部活動でやっていることはユースチームでも実現ができると思う
- ・ (合同チーム) 大人が増えたことによる安心感
- ・ 子ども同士の交流があって良い

■どんなことが必要？

- ・ 市の協力 (市全体で動く)
- ・ 人材 (指導者) の確保
- ・ (協会・民間含む)
- ・ 競技協会・民間との連携
  
- ・ 指導者の質 (安全性、基準)
- ・ 指導者の研修
- ・ 一人で背負わない いろいろな人と連携するという意識が必要
- ・ 指導者同士の安心感の確保

=====  
意見交換会 全地区

【グループ A】

■子どものニーズとは

○めざす目的

- ・ 夢
- ・ 自己実現
- ・ ワクワク
- ・ ドキドキ
- ・ 憧れ
- ・ 自主自律への成長の場

○選択

- ・ 自由
- ・ 色々な種目の体験ができる
- ・ 複数の種目に平行して参加できる
- ・ 楽しい内容
- ・ 専門性
- ・ 専門性の勉強
- ・ 指導者と信頼関係を築ける (生徒、保護者)
- ・ スポット的な内容が開催される
- ・ 伝統の継承
- ・ 基本のマスター

○コミュニティ

- ・安心
- ・仲間
- ・家でも、学校でもない居場所
- ・チームワーク
- ・学校に行きにくい人も参加できる
- ・障害がある子も OK
- ・みとめてもらえる場所

○課題

- ・便利
- ・持続の大切さ
- ・子どもが徒歩で行ける距離にある施設
- ・持続の大切さ
- ・参加費はハードルになる？

○何ができる、可能性

- ・啓発活動
- ・中学校の先生との連携（情報交換）
- ・インバウンドとのコラボ
- ・指導者の定期的なブラッシュアップと新しい人が入りやすい環境
- ・継続的な講習制度（一度きりではない）
- ・子どもが中心になる運営
  
- ・助成制度
- ・公共施設利用時の減免制度
- ・部活バス（企業協賛）
- ・ボランティア精神に頼らない報酬制度

■ どういった方が連携できるか

- ・地域の方（先輩方）様々な年齢層
- ・箕面市内の文化関係の協議会に協力を求める
- ・地域資源との連携
- ・近隣の学生等の協力（せっかく大阪大学が近くにあるので、もう少し連携しては）

【グループ B】

■ 子どものニーズとは

○ガチとゆる

- ・大会に出場したい、優勝したいという子どもと余暇活動、居場所として参加している子どもに対応。

○スキルアップ専門

- ・専門的な指導がほしい
- ・スキルを高めたい レベルに分けた練習場の確保ができれば。

- ・上達する喜び

○選択できる、変わることができる

- ・帰宅部でもいいじゃないのか（中学校は、1人1クラブという固定概念を取っ払う。嫌々仕方なくクラブに入る子どももいる）
- ・興味のある競技をいろいろ体験できる選択枠がほしい
- ・子どもがしたい種目に参加できるように。ただ、ミスマッチがあるときは別のクラブに変われるように

○勉強以外で輝く

- ・試合に出たい、勉強以外で活躍したい、勉強以外で光るものを持つ子が輝ける場を
- ・勉強以外をやりたい

○仲間 交流 共に喜び合う

- ・同じ思いをもった仲間づくり さまざまな人間関係を構築できる場
- ・クラブを通じて友だちと共通の話題や思い出をつくること
- ・部員との部活を通じた交流
- ・チームで勝つ喜び

○世代を超えた交流も

- ・中学校1～3年生以外の年齢の垣根をこえて

■何ができる、可能性

- ・ガチ勢 練習場の自由選択、社会人クラブ、高校、大学が受入体制をつくる
- ・ベクトルがちがう生徒同士で対立すること自体も部活動の大事な要素。→これをできた上で、別の受け皿を用意
- ・ゆる 放課後、校舎に残って同好会をつくる 先生は不参加。子どもたちだけで運営
- ・中学校の自由な校舎開放
  
- ・PTAクラブに子どもも参加できるように（今は、PTA、PTAOB、それらの子、地域の人、その他）  
（参考：北小バド部）
  
- ・豊富な人材（指導者の確保）
- ・指導者だけにとどまらず地域団体、施設との連携
- ・カテゴリー別、レベル別  
↓ そのためには
- ・財源確保
- ・指導者のモチベーションUPのための支給
  
- ・地域クラブも出られる大会を
- ・大会ルールを変える
- ・だれでも参加できる大会 みんなが参加できる

## 【グループ C】

### ■子どものニーズとは

#### ○楽しめる場（放課後、休日の充実）

- ・ 厳しいクラブ、ゆるいクラブ どのように取り組むか
- ・ 楽しい部活動ができたらいいと思います
- ・ 楽しく過ごせる時間
- ・ 時間
- ・ 楽しみたい

#### ○人間関係を学ぶ場

- ・ クラスの顔、クラブの顔
- ・ 団体活動ができる
- ・ 友だちと目標を一緒に持ちたい
- ・ 家庭

#### ○仲間づくりの場

- ・ 友だち
- ・ 友だちができる
- ・ 団体活動に対する仲間づくり

#### ○高める場

- ・ 複数の種目ができる
- ・ うまくなりたい
- ・ 興味関心
- ・ 憧れの選手みたいになりたい

### ■何ができるか、可能性

- ・ 地域の施設を利用できる
- ・ 市の体育館使用
- ・ 安心、安全に活動ができる
- ・ 生徒の通える範囲での活動
- ・ 公共施設
- ・ 公共施設
- ・ 巡回バス
- ・ ゆずるバスの活用
- ・ 自転車で移動しているのをよく見るが、危険でもある。
- ・ 移動は土、日の活動にする

平日は在籍校の部活動、休日は地域クラブ

- ・ 地域活動への参加
- ・ 保護者、地域の協力
- ・ 中学支援
- ・ 北摂地域

- ・指導者の確保

■ どういった方が連携できるか

- ・コミセン
- ・小学校区コミセン
- ・大学（大阪大学、大阪青山大学）
- ・中学校施設
- ・生涯学習センター
- ・学校施設
- ・学校の教室
- ・スイミングスクール
- ・第1、第2 総合運動場
- ・武道館

お金は大事！

- ・財源は、体力向上をめざすなら、市の予算を確保すべきでは
- ・受益者負担も必要
- ・技術指導+人格形成が必要
- ・学生の指導者の確保は

【オンライン】

■ 子どものニーズとは

○指導者が来ることで専門技術が得られる

- ・外部クラブ
- ・より高い技術
- ・部活動
- ・やったことのないことを経験できる

○楽しさを伝えられる出会い

- ・楽しさ
- ・触れ合えるきっかけ

○学校環境の改革も必要

○子どもたちが自分たちで工夫ができる

- ・今ない種目のクラブ（多様性）
- ・気づきを得られる
- ・チャンス
- ・主体性

■ どんなことが必要？（連携や考えたなど）

○自分たちで考えて行動するクラブ内容

- ・部活動の文化（先輩・後輩）の継承

○指導者（人材）

- ・思いのある先生が参画・くみ取れるクラブづくり
- ・子どもたちと一緒に歩む大人
- ・地域で循環する仕組み
- ・見守り・支えてくれる人
- ・大学生

○専門性

- ・指導の経験
- ・競技の経験
- ・必ずしも競技の専門性は必要ではない

○基準（クラブ・指導者・研修）

- ・参加する側も理解・同意する仕組み
- ・マニュアル化（深掘りしたもの）
- ・責任の所在
- ・対応方法
- ・指導者研修
- ・しっかりしていないと保護者としても安心して預けられない

○スポーツと文化の交流の可能性は

- ・なぜその競技に興味をもったのかを交流できる場（中学生には難しい？）
- ・競技技術以外の点での交流（例：呼吸法 →コーラス）
  
- ・学校教育とは異なった視点の活動